田植

田んぼアートの成功を願い ――

豊作祈願 田植え祭り

育苗と測量を終え、ついに田植えの作業です。

5月29日㈰には約３００人の参加により「豊作祈願 田植え祭り」が開催されました。町内外の親子を中心とした一般参加者のほか、岩瀬農業高校、町農業青年会議所、町老人クラブ連合会、東京の野菜ソムリエと福島大学の学生により構成する「チームふくしま。」などが参加し、50アールの水田に田んぼアートを描きました。

田植え終了後には、ヘルスメイトの皆さんによる手作りの豚汁と、昨年採れた田んぼアート米を使った特製おにぎりが振る舞われました。

6月4日㈯には、町の小学生が参加するアドベンチャークラブの事業により稲文字の「またね～ＤＣ」の部分が植えられ、田んぼアートが完成となりました。

植える稲は７種類

鏡石町の田んぼアートは６色７種類の稲で描かれます。メインの色となる緑の部分には、福島県のオリジナル水稲米である「天のつぶ」が使われており、稲刈り後は田んぼアート米として町内の学校給食などで振る舞われます。

その他、濃い緑は「紫穂波」、白色は「ゆきあそび」、赤色は「べにあそび」、だいだい色は「あかねあそび」、黒色は古代米の「紫大黒」、黄色は「黄大黒」が使われます。天のつぶと古代米以外の稲は、田んぼアートのために開発された観賞用の稲なので、穂はあまり実りません。

稲と言えば、穂が実り稲が黄金色になる秋ですが、田んぼアートの見頃は稲が鮮やかになる夏です。特に、６色７種類の稲のコントラストが最も引き立つのは７月中旬から８月中旬です。

秘密は遠近法？

鏡石町の田んぼアートは、図書館４階の展望室から斜めに見下ろした時に絵柄がちょうどよく見えるように、画像処理ソフトで遠近法処理がされています。

テーブルに絵を置いて斜めから見ると、絵が間延びして見えると思います。次の写真は田んぼアートを上空から撮影したものですが、絵柄がゆがんでみえますね。図書館の展望室から見た時にだけ、絵柄がきれいに見えようになっています。

◀上空から撮影した田んぼアート

紫穂波（鑑賞用）

天のつぶ（うるち米）

黄大黒（古代米）

紫大黒（古代米）

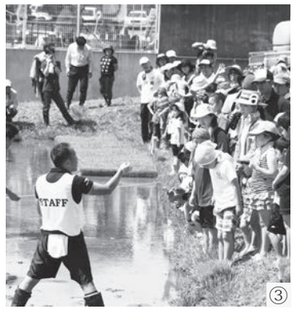
ゆきあそび（鑑賞用）

べにあそび（鑑賞用）

あかねあそび（鑑賞用）

①

②



③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

①お父さんとポーズ　②稲を持ってみんなでポーズ　③担当者からの説明を真剣に聞く参加者　④アートのキャンバスとなる水田は、展望室となる図書館のすぐ北側です　⑤アドベンチャークラブの子ども達も楽しく植えました　⑥生物生産科の生徒たちが田植えにも参加　⑦同じポーズで真剣に田植えをする親子　⑧裏方もこなす岩瀬農業高校の生徒たち

■ INTERVIEW

大切なつながりが出来ました ――

ふくしまの恵み応援プロジェクト
「チームふくしま。」代表
岩崎真理子さん

「チームふくしま。」は、野菜ソムリエが中心となり、福島のフレッシュな情報を得ながら、福島の食べ物を積極的に食べる集団です。

田んぼアートに参加して２年目になりますが、鏡石町の皆さまは訪れるたびに「おかえり～」と迎えてくれます。この日は、一緒にどろんこになりながら「かぐや姫」を描いていく楽しい一日でした。10月の稲刈りまでに何度、図書館４階の窓辺に立てるのか今から楽しみです。

▲全員での集合写真

獨協大学の学生など関東からの参加者９名と、福島大学の学生６名が参加した「チームふくしま。」の田植え隊です。